

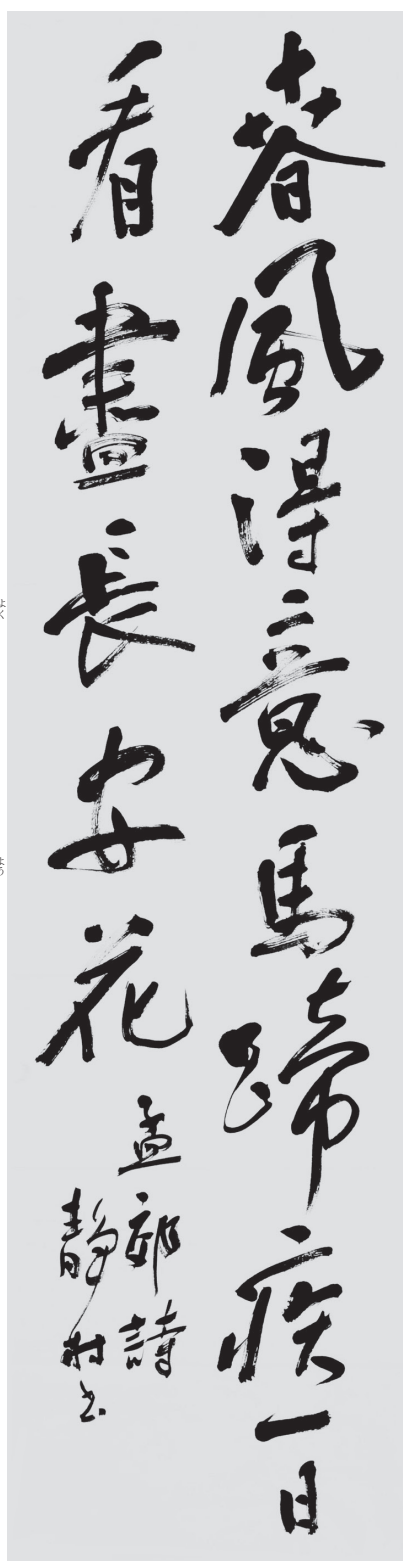


条幅部漢字課題参考

(五月二十二日締切)

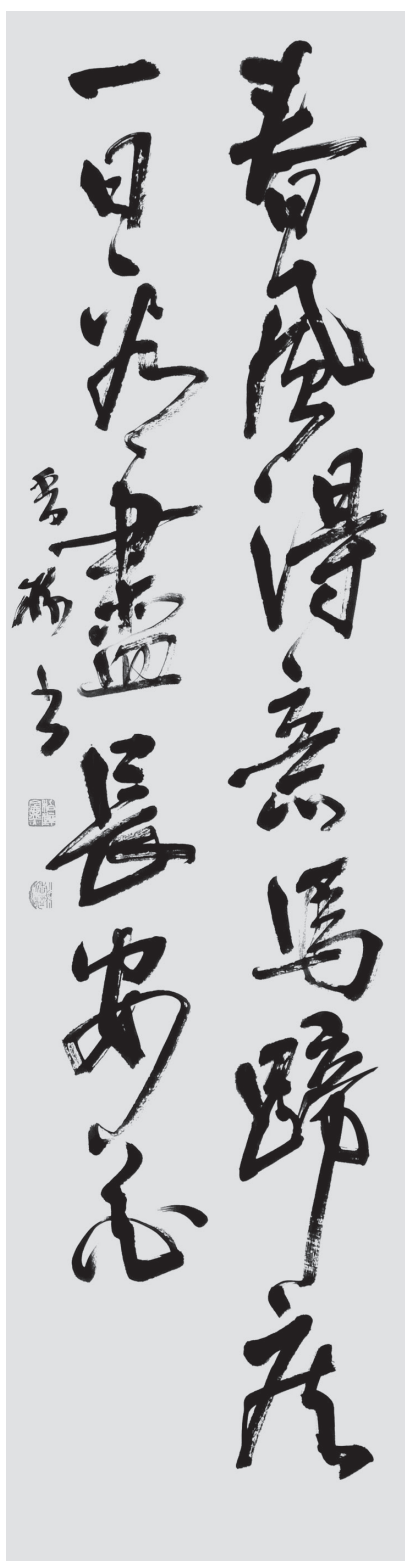
A
鈴木静村先生書

春風得意馬蹄疾 一日看盡長安花 (孟郊)
春風意を得て馬蹄疾く、一日看盡くす長安の花。



B
高橋香樹会長書

太細の導入で変容を——線を太く書き表わす「抑」の用筆、細く表わす「揚」の用筆を効果的に導入して下さい。「抑え」では遅速の中で筆毛を開かせ、「揚げる」用筆では、鋒先を利かせた用筆での細線の表出を。春 異体文字。疾一日 三字を一字として脈絡。



今回は、連綿線を多用した作としました。前にも書いていますが、漢字は左上から始まり、右下で終わることが多い為、連綿すると、右下から次字の左上に連綿されることとなります。この同じ動き・向きを少なくする工夫が必要となります。皆様も試みて下さい。墨継ぎは「蹄」と「長」。

予告 (六月二十二日締切)

湖月林風相與清 殘尊下馬復同傾 (杜甫)

- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点 (バーコード券の条漢を○で囲み(1)と記入する。)
 - ・二枚目からの出品 (バーコード券の条漢を○で囲み()に何枚目か数字を記入する。出品料550円)

条幅部かな課題参考

(五月二十二日締切)

A

平岡華雪先生書

山道に昨夜の雨の流したる松の落葉はかたよりにけり (島木赤彦)
山道に昨夜の雨の流したる松の落葉はかたよりにけり

B

青柳香竹先生書

山三遅にゆふ邊能あ免農奈可之た類松乃落葉盤か堂より二介里

学び方

歌意：山道を歩いてゆくと、昨夜降った雨が流した松の落葉は、道の一方に片寄っているよ。
一行目は、たっぷりの墨色で小ぶりに書きはじめ、二行目は、大きめの字形で、ゆっくり渴筆で書き込みました。
終句で墨継ぎもし、変化を見ました。潤筆・渴筆の対比と調和が表現に変化をもたらします。
仮名作品は、変体仮名を使ったり、連綿を入れたりして紙面に表現の工夫をして書かれると良いと思います。又「見せ場」を頭に入れると、作品が引き締って見えますね。いろいろ書き込んで、眺め、自分の美意識を高めて取り組んでみて下さい。

予告 (六月二十二日締切)

夏の日はなつかしきかなこころよく梔子の花の汗もちてちる (北原白秋)

島木赤彦

(明治九年—大正一五年)
長野県生まれ。伊藤左千夫に師事、アララギ派の中心的歌人。大正三年より赤彦が中心となって短歌雑誌『アララギ』は編集・刊行された。歌集『馬鈴薯の花』『太虚集』『水魚』等、赤彦全集八巻がある。

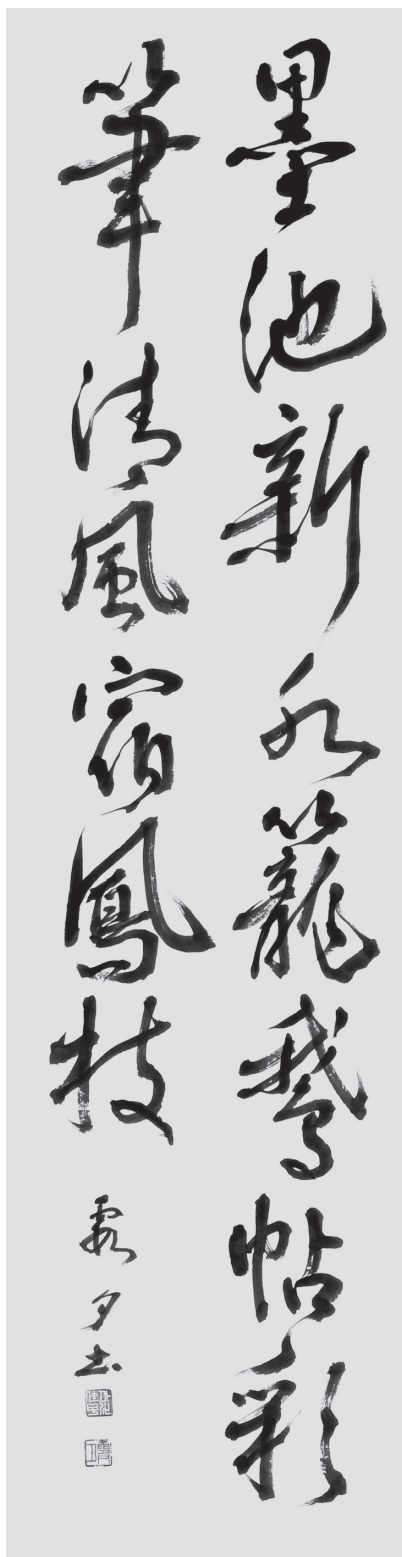
◆注意

- ・条幅部の出品は一人一点 (バーコード券の条かを○で囲み(1)と記入する。)
- ・二枚目からの出品 (バーコード券の条かを○で囲み()に何枚目か数字を記入する。出品料550円)

条幅部随意参考

外川霞夕先生書

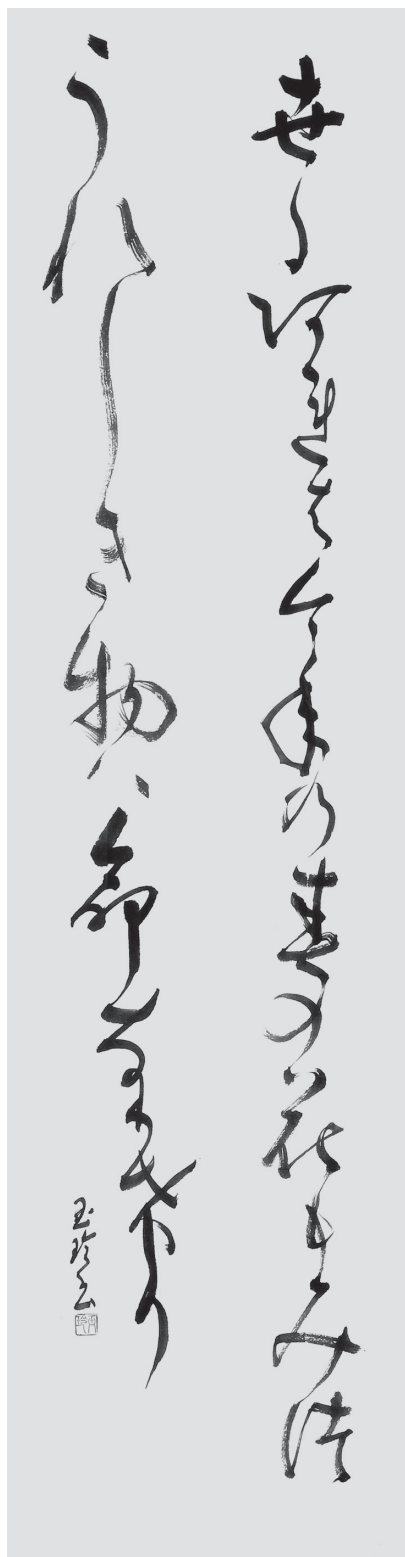
墨池新水籠鶯帖 彩筆清風宿鳳枝（沈石田）
墨池新水鶯を籠むるの帖、彩筆清風鳳を宿する枝。



訳：新たに磨った硯の墨は鶯鳥と交換する帖を写し、絵筆に起こる清風は鳳を宿す竹を描くのである。

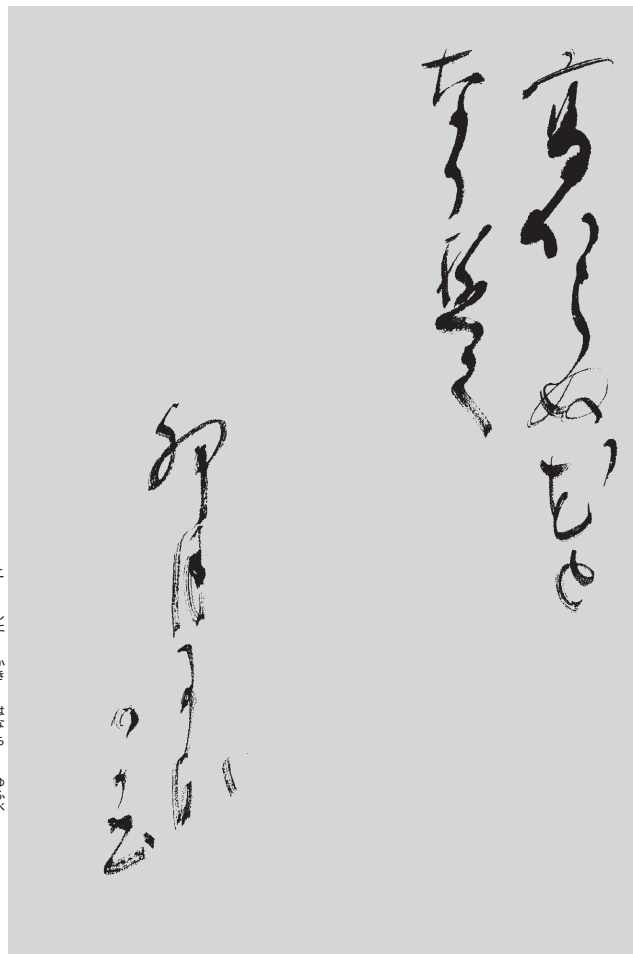
大和田玉玲先生書

世にあれば今年の春の花もみつうれしき物は命なりけり（本居宣長）
世にあれば今年（ことし）の春（はる）の花（はな）もみつうれしき物（もの）は命（いのち）なりけり（本居宣長）
世にあれば今年（ことし）の春（はる）の花（はな）もみつうれしき物（もの）は命（いのち）なりけり（本居宣長）



- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点（バーコード券の条随を○で囲み（１）と記入する。）
 - ・二枚目からの出品（バーコード券の条随を○で囲み（ ）に何枚目か数字を記入する。出品料550円）

かな部課題参考 (五月二十二日締切)



(六月二十二日締切)

木の下の花散る夕かな (蕪村)

平岡華雪先生書

高からぬ花となりゆく卯月かな (関更)
高からぬ花となり遊久卯月可那

〈連綿線について〉

「高」から「か」また「な」から「り」への連綿線は、このまま太くそっくりに書こうとすると、遅渋しがちになり易い。筆圧を強めつつも、速さの用筆に心がけてほしい。

漢字部課題参考 (五月二十二日締切)



(六月二十二日締切)

夏木自新色

平岡華雪先生書

泉流れて道心を見る (莊宝書)
訳：流れる泉に道の心を見る。

「泉」「道」の「払い」は共々、のびやかに用筆、それぞれ主筆として効果させたい。



◆注意…はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位)に①～④を記入し、作品左隅に貼付の上、出品して下さい。一般会員は無料、会員外出品料は460円。

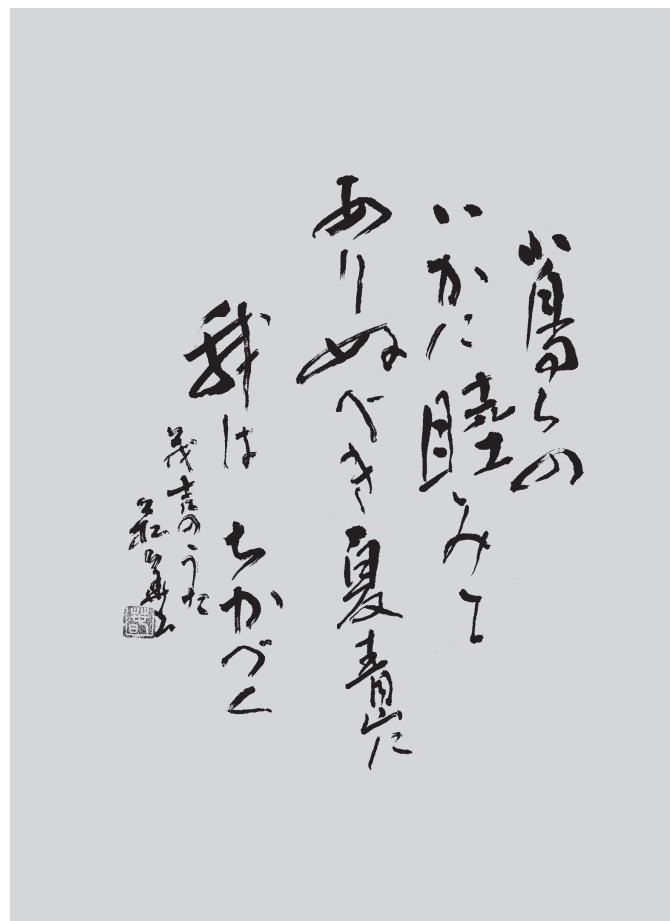
①出品部門(例：「漢字部」「かな部」) ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新

楷、行、草、三体課題参考 (五月二十二日締切)

漢字かな交じりの書課題参考 (五月二十二日締切)

小暮 菰華 先生 書

小鳥らのいかに睦みてありぬべき
夏青山に我はちかづく (斎藤茂吉)

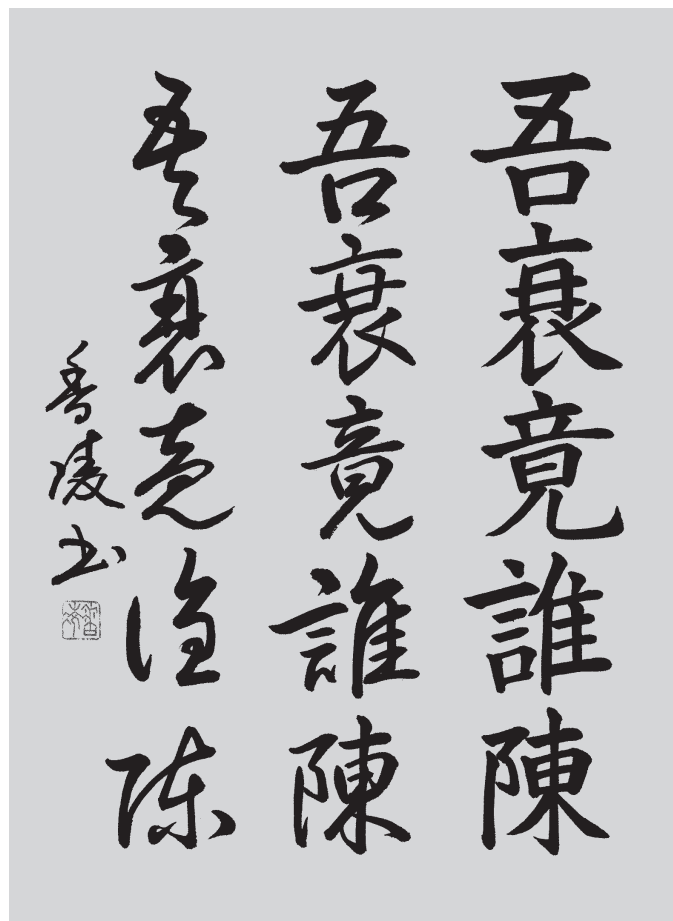


(1)出品料550円 (2)バーコード券余白に「漢か」と記入

斎藤茂吉(一八八二〜一九五三)の十七集の歌集の中、「つゆじも」より。
雲仙にて療養中、春から夏にかけ、聞こえてくる小鳥たちの賑やかな声につつまれている
さまらしい。三行目と四行目間に、余白を挟み全体を楕円形に構成しました。落款も楕円
の中に。構成に合わせ、字の大小等の変化、デフォルメを試みました。

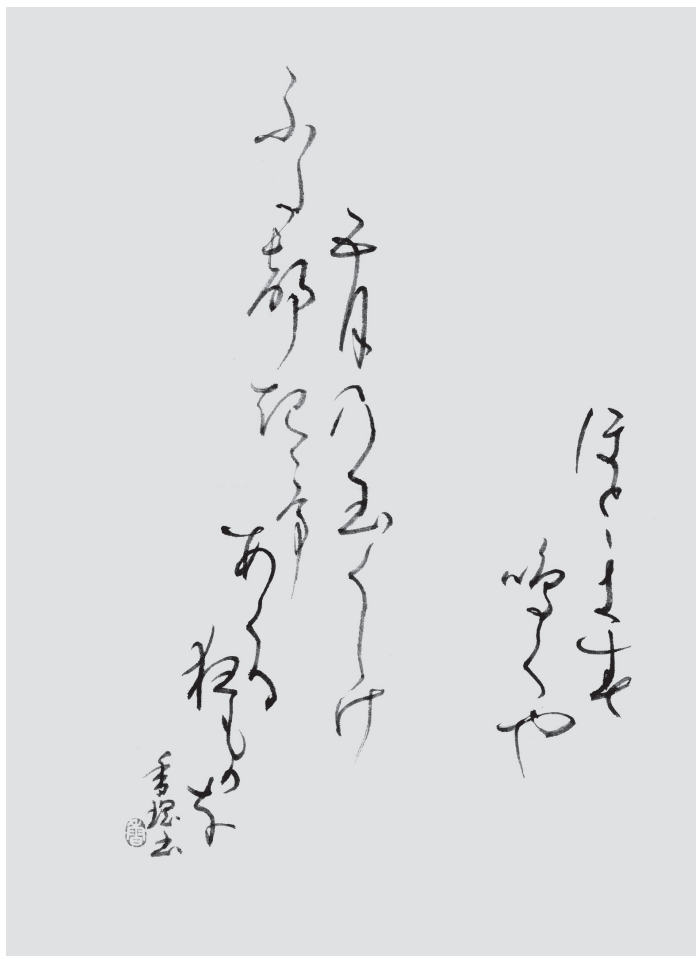
高橋 香凌 先生 書

吾衰竟誰陳 (李白) 吾れ衰うれば竟に誰か陳べん



(1)随意部参考として出品してください。(2)会員外の出品料は460円。

随意部参考

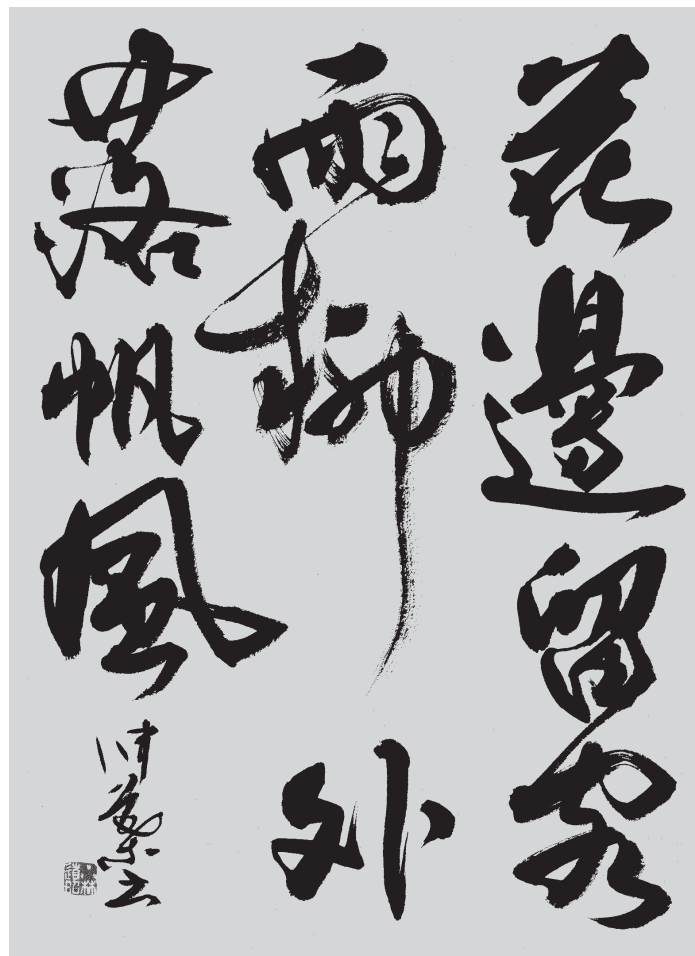


内藤香瑤先生書

訳：花咲くあたりに雨降って客を留めており、楊柳のしげる処には風に帆をおろす船がある。

ほととぎす鳴くや五月の玉くしげ二声ききて明くる夜もがな（藤原雅経）
ほととぎす鳴くや五月乃玉くしげふ多聲紀亭あくる夜も可奈

随意部参考



小林伸葉先生書

花邊留客雨 柳外落帆風（張棟）
花邊客を留むる雨、柳外帆を落す風。

硬筆部昇試課題参考

(五月二十二日締切)

湯澤春翠先生書

石原春香先生書

昇試課題2 (初段格以下)

昇試課題1 (師範以下初段以上)

※正教授合格者は創作部門(自運作品、自由形式)を出品のこと。

揚子江下流の揚州は、水の都である。このあたりは対岸が見えないほど河幅が広い。

窓をあけて、外苑の競技場の大時計を見ようとしたが、いつの間にかすっかり樹立の青葉が繁って屋根まで見えなくなっていた。

課題1 (初段以上)

窓をあけて、外苑の競技場の大時計を見ようとしたが、いつの間にかすっかり樹立の青葉が繁って屋根まで見えなくなっていた。

『別れも愉し』宇野千代

◆注意

- (1) 自分の段級に合った課題を選択。ペンまたはボールペン(黒色)を使用のこと。青インクは不可。
- (2) 段級欄は本人が記入(色は黒)はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位) 次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。①硬筆部②支部名または都道府県名③氏名または雅号④新受験料は一、〇二〇円
- (3) 添削希望者は当会事務局にお申込下さい。(返信用封筒に自分の住所・氏名を記入し、切手を貼って同封のこと。)
- (4) 課題1 九九〇円
- (5) 課題2 五五〇円

課題2 (初段格以下)

揚子江下流の揚州は、「水の都」である。このあたりは対岸が見えないほど河幅が広い。

『漢字の話』藤堂明保